

学校点描^{プラス}+

24日は今年最後の授業日。前夜の積雪で
玄関は人の肩までの雪です。正野先生のお
父さんが機械を運んで除雪してくれました
《K中学校》

NO.14

R4. 12. 24

担当：校長

12月18日（日）に地区団体対抗卓球大会が開催され、N・Tさん、S・Rさん、H・Kさんで組んだ団体チームが見事優勝しました。

同日に開催された地区吹奏楽アンサンブルコンテストで、金管四重奏が銀賞、サクソフォン三重奏は銅賞でした。フルート三重奏は、人数不足で審査対象外にはなりましたが、立派な演奏でした。

20日（火）S母親委員長から太陽生命事務長さんへ毎年恒例のランドセルが贈呈されました。送られたランドセルは、アフガニスタンの子どもたちに送られます。家から10キロ以上離れた青空教室に教科書やノートを布に包んで通っているといいます。机代わりにもなり、単に便利になるだけでなく、学校に通うきっかけにもなっているということです。「もし自分がアフガニスタンの子や親だったら」と考えます。



心が動く学校に

生徒会三役の生徒一人一人と校長室で一緒に給食を食べながらのランチミーティングをしました。その中の一人の生徒は、「人にはいろいろな考え方があるから、その人の考えを受け入れるようにしています。」と、話してくれます。中学生に教わることは、この年齢になってもまだまだあります。数日後の全校集会で、この話から思いついたことを話そうと思いました。

さて今年最後の全校集会の話をします。

今年最後の話は『「心を動かす」』です。自分の正しさと違う人がいると、大人も子どももすぐにその人を遠ざける排他的になるでしょ、でもそうならない人もいる。一体それは何の違いなのかと思いました。それは「自分の正しさと違う考えを受け入れる」ことができる人とできない人との違いなんじゃないかと思ったわけです。



これは『すずめの戸締まり』という映画です。見た人いますか？

見ていない人もいますので、あらすじは詳しくは話できませんが、東日本大震災などの災害をテーマにしています。この映画を見ると、1冊の冊子をもらいます。「映画を見たあとに、見てください」と書いてあります。この冊子には監督の考え方が書いてあります。実はこの作品は、東日本大震災の描写が生々すぎるので楽しめないという意見があります。アニメなんだから、もっとファンタジーに楽しくしてほしいという意見があります。もちろん、作品自体は素晴らしく見応えがありました。ただ、アニメの世界で、震災をテーマにすることには評価が分かれたということです。

新海 誠 監督は敢えて、批判さえることを承知の上、災害の生々しい場面の描写を入れたのです。そこには、自分の正しさを知って欲しいと願う、新海監督の思いがありました。被災者の方には辛い描写かもしれないけれど、書かないで逃げることはできなかったのでしょうか。この映画は見る人が、心を動かして見なければ、作者の真の意図は伝わらない作品でした。



次の写真の題名は『ハゲワシと少女』です。

これは南アフリカの報道写真家であったケビン・カーターというカメラマンが撮影した一枚の写真です。1993年に内戦が続くアフリカのスーダンの、やせ細った少女がおり、そのそばでハゲワシが少女を狙っている姿を映し出しています。

この写真は、アフリカの飢餓や貧困を示したものとして、世界に最も衝撃を与えた功績に対して授与される賞、ピュー

リッツァー賞を受賞します。報道写真として名誉ある賞だと言えます。

しかし、「ハゲワシが、飢餓で力が弱り動けなくなっている孤独な少女を食らおうとしている。」この写真を見て、写真家ケビン・カーターのもとには、「撮影よりも少女を助けるべきだった」という非難が殺到しました。

あなたは、“写真をとるべきだった”、“助けるべきだった、どちらですか？

なぜそう考えたのですか？

一つ言えることは、この写真がなければ、同じ地球上に、こんな過酷で苦しんでいる人々の存在を知ることはなかったということです。この写真の後、先進国の国々がこぞって支援をはじめます。一方で、先進国の人間が見るための写真撮影を、命の危機に瀕している少女をほっといてでもするという行為は人道的に許されることではないのも事実です。

人にはそれぞれ自分なりの正義がありそれに基づいて行動しているはずですが。その正義に対して、賛成、反対と簡単に判断することは、その人の考え方をすることなく、自分の考えを押しつけるだけに過ぎないと思います。どうしてあの人はあんなことをやったんだろう？とか、自分だったらどうしたんだろう？と、少しだけ心を動かしてその人に自分になってみたら、もしかしたら、その人なりの正義がわかってくるかもしれません。その人なりに大切なものを守るためにやったのかもしれない。

今日紹介した二人は、時代も仕事内容も違うけれど、自分の正義を伝えるにはどうしたらよいのかと考えた点是一緒です。映画や写真を見ている人に、自分なりの正しさを勇気をもって表現している点です。二人ともジャンルは違ってもそう思った点は共通点だと思います。同時に、弱い人に強くなれというのではなく、弱い人がその立場のままでも生きやすい社会を目指さなくてはならないと思ったのだと思います。「がんばらなくていいんだよ」「あなたはあなたのままでいいんだよ」と、みんなが思える社会がこの二人の正しさの基準のような気がします。

そう思うと、この正しさは、やり方には賛否両論あるけれど、もっと深いところでは、多くの人が納得するものなのではないか、心を動かすというのは、やり方で判断するのではなく、その奥にあるものまで動いて考えて理解しようとするのではないかと思うのです。

今年一番、相手を理解しようと心を動かしたのはどんな出来事でしたか？

2023年よい年をお迎えください。

ある生徒から刺激され、もっと他者の思いを受け入れるようになりたいと感じた話です。生徒も教師も、そして保護者も、心が動く学校に来年も挑戦し続けます。

きりとりせん

ご意見・ご感想をお願いします。